

「あぜ道に侵略する帰化植物にご注意!」



▲ブタナ(6～9月)



▲オオキンケイギク(5～7月)



▲セイタカアワダチソウ(9～11月)



▲ひとつの花からできる種
(ブタナ:70個以上 オオキンケイギク:60個以上)

あぜ道は田の水を貯める土手であることに加え、季節ごとに様々な植物や益虫が生息する場所でもあります。

しかし最近、海外からの帰化植物が、あぜ道を占領している様子が多く見られます。帰化植物は繁殖力が強く、土の栄養を独占してしまうので在来種の植物や益虫が減り農地の質を落とす原因にもなります。

そこで今回は、在来種の植物を守るため、帰化植物の刈り取りのポイントを紹介します!

【刈り取りのポイント】

○刈り取り方法：刈り払いおよび抜き取り

★刈り払い作業ポイント：種をつける前(5月～9月中旬)に、年2～3回に分けて刈払機や鎌を使用して地上部を刈り取りましょう。

★種がついていたら刈り焼きをしましょう。(マダニ駆除にもなります。)

★抜き取り作業ポイント：花の本数が少ないうちに、土の中に根を残さないようにスコップ等を使用して抜き取りましょう。

★最大のポイントは根気!
日々の努力が農地を救います!
頑張りましょう!



- 庄原市農業委員会の理念●
- ①担い手への農地利用の集積・集約化
 - ②遊休農地の発生防止・解消
 - ③新規参入の促進

令和6年8月20日(第8号)

編集・発行
庄原市農業委員会 広報委員会
TEL 0824-73-1133
FAX 0824-72-3322
MAIL nougyou@city.shobara.lg.jp

がんばる農業者を紹介 「宝の郷を未来へ」



株式会社宝郷は、令和元年に庄原市比和町で設立された農業法人です。

作業員は20代から50代の8人で、約40ヘクタールの比和町内の農地を所有者から借り受けて酒米、コシヒカリ米、もち米を生産されています。

作業員の皆さんは、農業を次世代に引き継ぎたいという強い思いを持たれており、令和6年6月上旬に比和小学校の児童を招待して田植え学習交流会を開催されました。

田植え体験で児童たちは「最初は田んぼの泥が気持ち悪かったけれど、植えるのが楽しくて全然気にならなくなった」と笑顔を見せていました。作業員の皆さんは「子どもたちには良い経験になったと思う。これをきっかけに将来、比和町の農業を引き継いでほしい」と話されていました。

編集後記

今年も猛暑が続く毎日。円安や物価高騰も続き、心も体もなかなか落ち着かないと思います。そんな時こそ、自分たちが愛情込めて育てた農作物が味方してくれそうです。厳しい時期を耐えるには栄養が必要です。食べるという字は「人が良くなる」と書きます。食べれば体が元気に、誰かと一緒なら心ももっと元気になります。農作物の力を味方に、厳しいこの季節を、ともに助け合いながら乗り切っていきましょう。

農業情報満載

全国農業新聞

700円/月 毎週金曜日発行

庄原市農業委員会事務局(0824-73-1133)または、各地域の農業委員・推進委員に申し込みください。

一人ひとりの農業者を応援する

農業者年金

3つの条件を満たせばどなたでも加入できます。

60歳未満

国民年金第1号被保険者

年間60日以上農業従事